

## 逆風を順風に 宮崎大学女性研究者支援モデル

(実施期間：平成 20～22 年度)

実施機関：宮崎大学（総括責任者：菅沼 龍夫（住吉 昭信））

## プロジェクトの概要

「清花 Athena サポート室」を設置し、育児・介護の専門支援スタッフの配置、女性研究者の抱える問題への web site を介した迅速な対応、学内保育所の利用体系の見直しにより、大学のバックアップ体制を強化する。さらに、男子学生や男性教員と研究者の環境整備、女性支援のあり方について意見交換を行い、数値目標に関する意識改革を推進するとともに、研究者の裾野拡大のため次世代への啓発活動を行い、長期的視野に立った数値目標の達成を目指す。企業的女性研究者との交流セミナーや国際学会への参加費助成を行い、女性研究者のモチベーションの向上、自己実現を支援し、また、女性研究者経済支援や教育システムの整備により研究の質の向上に反映させていく。

## (1) 評価項目

総合評価	目標達成度	システム改革の成果	取組	波及効果	実施体制	実施期間終了後における取組
A	a	a	a	s	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## (2) 評価コメント

女性研究者採用の数値目標設定に対する機関内の反対意見が大幅に減少するなど意識改革が促進された。さらに、九州・沖縄地域の大学を対象にした、女性研究者支援ネットワークの構築及びシンポジウムの開催により、地域の大学に対し大きな波及効果をもたらした点が高く評価できる。所期の計画をほぼ達成しており、今後は意識改革の成果を踏まえ、工学・農学系分野における女性教員比率の向上が期待される。

**目標達成度**：様々な施策を実施しており、ほぼ目標を達成している。また、「全教職員の働きやすい環境の実現」をキーワードに実施した意識改革への戦略的取組は、女性研究者のみならず男性教職員、学生にも広く普及しており、評価できる。

**システム改革の成果**：多数の広報の発行、応援団シールの配布等の地道な取組によって、女性研究者採用の数値目標設定に対する反対意見を大幅に減少させ、意識改革を全学に浸透させた。

**取組**：30名以上の女性研究者の国際学会への派遣、年間10名の女性研究者への研究補助者の配置などを実施するなど、サポート室を中心に女性研究者の支援及び研究の質の向上を効率的に実現しており、評価できる。

**波及効果**：九州・沖縄地域の大学を対象にした女性研究者支援ネットワークの構築、地域連携、及びシンポジウムの開催、また、子育て応援バッチの作製など、波及効果のある取組が高く評価できる。また、宮崎県男女共同参画功労賞を受賞しており、宮崎県において多角的な連携・広報

活動を行っており、自治体への波及効果も高い。

**実施体制**：学長のリーダーシップの下、全学体制で意識改革に取り組んだ。また、トップダウン及びボトムアップの両方を意識した実施体制を構築しており、相互に有効に機能したことが評価できる。

**実施期間終了後における取組**：サポート室は実施期間終了後も引き続き設置されており、支援効果の高い事業（研究助成、国際学会参加促進、TA・RA）は継続して実施されていることが評価できる。今後の取組の発展を期待する。